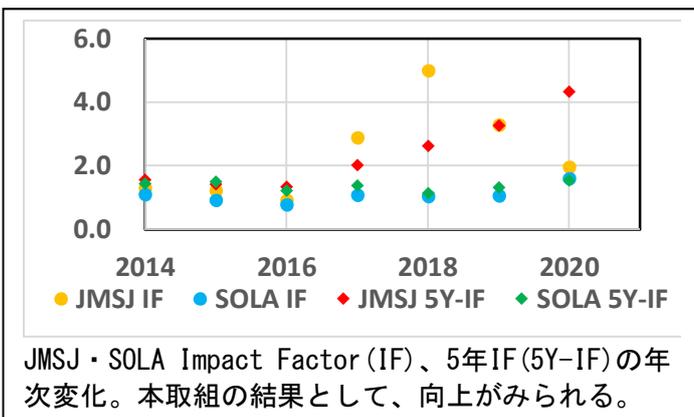


科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成30（2018）年度採択分）
 「Journal of the Meteorological Society of Japan 及び SOLA の日本気象学会による国際情報発信強化の取組」
 （課題番号：18HP2008）

学術団体名：公益社団法人 日本気象学会
 学術刊行物の名称：Journal of the Meteorological Society of Japan 及び SOLA
 事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法
 日本気象学会の刊行するJournal of the Meteorological Society of Japan (JMSJと略す)、SOLAは、気象学及びそれに関連する分野における日本で唯一の英文の学術論文誌・レター誌である。本取組を通じ、両誌を気象学分野における国際的にリードする専門紙としての地位を確立するため、様々な国際情報発信の持続的な取組を行うことにより、独立採算を安定的に実現し経済的基盤を確立することを目標とする。

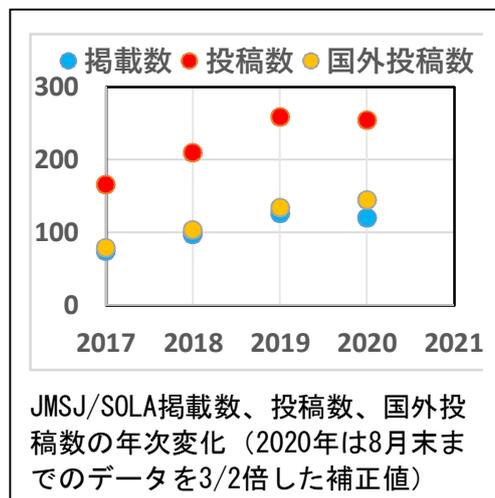


・応募時に設定した取組の目標・評価指標

JMSJ/SOLAのさらなる国際情報発信を強化し、両誌の質の向上を図り、気象学分野を国際的にリードする専門紙としての地位を確立する。中間評価時に年間掲載論文数100編、投稿数200編、国外からの投稿比率50%を目標とする。JMSJ、SOLAの両誌の密接な連携を図る；CC-BY 4.0 のもとでの完全Open Access 化を実現；Article Processing Charge (APC) を新設；広報体制を拡充し、2誌の連携によりvisibilityの向上を図る；査読、出版プロセスの迅速化；招待論文、特集号・特別号、国際会議開催等の戦略的な推進；データ付き論文、技術開発論文、速報ノート等新しいタイプの論文の投稿を促進；JMSJ/SOLA合同運営委員会、編集スタッフ等による体制強化、規程の整備を行う。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況：2018-2020年のJMSJ/SOLA通じての掲載論文数・論文投稿数・国外からの投稿比率は中間評価時の目標を達成している。JMSJ・SOLA合同運営委員会の開催等、両誌の連携を推進した；CC-BY 4.0 のもとでの完全Open Access 化を実現；Article Processing Charge (APC) を新設し、インセンティブのあるAPCの軽減措置を導入；編集アシスタントを雇用し、広報体制を拡充し、JMSJ・SOLA の連携したWEB の整備（全文XML形式の導入）、SNS を通じた情報発信、論文・ジャーナルの新着情報を発信；Advanced Online Publicationを導入。査読状況をモニターすることにより、遅延が防止する措置を講じた；招待レビュー論文を7編発行、5種類の特集号を企画、そのうち3種類はJMSJ・SOLA合同特集号として企画；J-STAGE DATAを利用したデータ付き論文の刊行開始し、論文のSupporting Dataのアーカイブ方法を整備；出版査読プロセスの迅速化、広報の拡充。著者・査読者・編集者向けの英文の規程を整備した。



・今後の計画：編集体制を強化することにより、国際情報発信の取り組みを引き続き強化し、独立採算を実現するとともに、継続的に維持するための基盤を確立する。JMSJ・SOLA の両誌の連携を推進し、編集委員会の拡充および編集スタッフの雇用により、完全 Open Access 化ジャーナル、低減化したArticle Processing Charge (APC)、継続的な情報発信・マーケティング、査読・出版プロセスの迅速化、招待論文・特集号・特別号の企画、J-STAGE DATA を活用した Supporting Data のアーカイブサイトの提供・拡充を通じて、JMSJ/SOLAの国際競争力を強化し、両誌の魅力を高めることで、投稿数の増大、質の高い論文の掲載数の向上を図り、国際誌としてブランドを確立する。